

平成31年第1回大仙市議会定例会

施政方針演説

平成31年2月22日

大仙市長 老松博行

平成31年第1回大仙市議会定例会にあたり、平成31年度の市政運営の基本方針と施策の概要について、ここに申し述べます。

1 はじめに

「^{うちたい}内平らかに^{そとな}外成る ^{ちたい}地平らかに^{てんな}天成る」という願いが込められ、時を刻んできた「平成」も残すところ2カ月あまりとなりました。振り返りますと、皇太子様・雅子様の御結婚や長野冬季オリンピックの開催など嬉しい出来事も数多くありましたが、バブル崩壊や東日本大震災をはじめとする大規模な自然災害の多発など、我々の生活を揺るがす様々な出来事が起きた、まさに激動の時代であったと思っております。5月の新天皇の御即位に伴い、「平成」に続く新たな時代が始まりますが、世界の安寧秩序が保たれ、日本そして各国の発展・繁栄が続く、後世に語り継がれるような素晴らしい時代になることを願うばかりであります。

大仙市におきましても、この新たな時代の幕開けを契機に、次なるステージへと大きく飛躍できるよう、「大仙市の明日を切り拓く」様々な取組に積極果敢に挑戦してまいりたいと考えております。皆様からのご理解とご協力を、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、1月からの大雪、5月の大雨、夏の猛暑、その後の度重なる台風の襲来など、一昨年に続き自然災害が多い年となりました。

一方で、花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」の開館や明治維新

150年を契機とした「有縁友好都市」宮崎市との交流拡大、韓国唐津市^{たんじんし}との「友好交流に関する協定」締結10周年記念式典の開催など、本市が盛り上がる出来事も数多くありました。

新たに始まる平成31年度は、4月の秋田県議会議員一般選挙を皮切りに、夏の参議院議員通常選挙、10月の消費税及び地方消費税の引き上げ、幼児教育・保育の無償化などが予定されており、社会情勢に大きな動きがある年となります。

本市においては、最上位計画である「第2次大仙市総合計画基本構想」の具体的な施策を示した「前期実施計画」をはじめ、「大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「第3次大仙市行政改革大綱」が計画期間の最終年度を迎えます。これまでの取組を検証するとともに、社会動向を的確に捉えながら、新たな実効性ある計画を策定し、「地域の商工業振興と企業誘致強化」、「攻めの『だいせん農業』の確立」、「若者がチャレンジできる環境づくり」、「子育て・教育の充実」、「医療・福祉の充実」、「地方創生への挑戦」を柱に、新しい時代に、向かって良いスタートが切れるよう、取組を進めてまいりたいと考えております。

2 主要課題等について

それでは、市の主要課題等について申し上げます。

(1) 農業政策について

はじめに、農業政策についてであります。

現在の日本農業は、環太平洋パートナーシップ協定（TPP11）等による自由貿易圏の誕生をはじめ、減反政策の廃止、激化する産地間競争など厳しい状況に置かれております。とりわけ稲作への依存度が高い本市農業にとっては大きな影響が懸念されており、今後も売れる米づくりを推進しながらも、畑作、園芸の複合経営や6次産業化等を積極的に進め、安定的で持続可能な地域農業の実現を目指してまいります。

稲作については、生産調整の実効性確保に向け、JA秋田おぼこや集荷業者等との連携強化に努めるほか、消費者ニーズを意識した高品質米や地域の特色ある米づくりに引き続き支援を行ってまいります。

複合部門については、広大な整備ほ場を有効活用できる土地利用型作物として引き続き「大豆」の生産振興を図るほか、中山間地域などの条件不利地域においては、出荷数量に応じた助成により「そば」の作付けを推進するなどの取組を強化してまいります。

園芸部門については、機械、施設等の導入経費に対する支援を行うほか、「しいたけ」などの周年農業に係る施設等の整備に対し、国及び県の補助事業の活用に加え、本市独自の助成を合わせて行ってまいります。

畜産部門については、大規模化を目指す畜産農家の畜舎整備や増頭による経営拡大を支援するほか、共同利用堆肥舎や畜産クラスター事業等による堆肥を活用し、耕種農業との連携を図り、地域農業の活性化に取り組んでまいります。

6次産業化については、必要となる機械、施設の導入について、国及び県の補助事業の活用に加え、本市独自の助成を実施するとともに、販路拡大に向けたサポート、加工用トマトをはじめとした原料生産に対する助成も行うなど、生産、加工、販売の一連の取組を総合的に支援してまいります。

「農業と食に関する活性化構想」については、本市の魅力ある地域資源を最大限に活用し、関係機関と連携を図り、本市全体が活気づく裾野の広い産業振興の実現のため、来年3月の策定に向け、作業を進めてまいります。

活性化構想の先行的な取組である「いぶりがっこの産地化」については、原料となる大根の栽培研究を進めるほか、栽培方法の周知や農業法人等へ納入した大根に対する助成を行ってまいります。また、規模拡大に取り組むいぶりがっこ製造業者に対し、県と連携を図り、機械、設備の導入支援を行うほか、二次的商品の開発、ブランド化の取組を進めてまいります。

担い手の確保育成対策については、東部及び西部新規就農者研修施設での若手就農者の育成のほか、法人化支援、経営安定化に向けたフォローアップなどを実施してまいります。

(2) 花火産業構想について

次に、花火産業構想についてであります。

平成31年3月で構想期間が終了する「花火産業構想第I期」につい

では、「株式会社花火創造企業」の設立による煙火製造拠点の整備のほか、「第16回国際花火シンポジウム」の開催、花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」の開館など、主要事業が概ね完了しております。現在、これらの成果を礎に取組をさらに前へ進めるため、平成31年度から5年間の構想期間とする「花火産業構想第Ⅱ期」の策定を進めております。

構想の一環として取り組んでおります「『メイドイン大仙』花火原料開発事業」については、花火創造企業により建設が進められていたマツ炭の粉碎施設がこの1月に完成しており、今後、秋田県立大学との連携による花火に適した製造方法の開発や、市内産農林生産物の活用研究を行い、高品質で安定した花火玉の供給ができるものと期待しております。

「国産無線点火システム」については、国内花火の演出力向上を図るため、国の補助事業を活用し、花火創造企業が主体となり開発を進めており、来年3月の製品版完成に向け、システム開発の進捗管理や国との調整などのサポートを行ってまいります。

来月開催する「新作花火コレクション『冬の章』」については、今回からNPO法人大曲花火倶楽部に代わり、市も加わる「大曲の花火」実行委員会の主催により開催することとしております。これまで以上に安全に配慮しながら、「四季の花火」の「冬」を飾る大会として成功させ、さらなる誘客と観光振興につなげてまいります。

なお、現在策定を進めている第二期構想におきましては、こうした

取組に加え、花火イベントで観光振興に取り組む「国際花火観光都市」との交流や海外の花火会社などが出場する「国際花火競技大会」の開催など、新たな観光振興や交流人口の拡大に向けた施策を盛り込む予定としております。「大曲の花火」のブランド力を最大限活用した地方創生の深化を引き続き図ってまいりたいと考えております。

(3) 人口減少対策、地方創生の実現に向けた取組について

次に、人口減少対策、地方創生の実現に向けた取組についてであります。

本市では、急速に進む人口減少、少子化や超高齢社会の進行など、社会全体の大きな変化に対応し、市民生活の維持と次の時代に希望が持てるまちづくりを進めるため、「大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し「地方創生」の実現に向けた実効性のある取組を進めております。

「雇用創出」については、新たに「情報関連産業集積事業費補助金」を創設し、IT関連企業はじめ、製造業のデザイン部門及び設計部門、コールセンターの立地促進を図るほか、積極的なトップセールスによる企業誘致に努めてまいります。また、平成29年度の工業団地の適地調査により最適地と判断した大曲西根地区について、引き続き、候補地として調査・整備を進め、「しごと創生」の実現に努めてまいります。

「移住・定住の促進」については、移住コーディネーターが希望者の仕事や住まいなど多岐にわたる悩みをサポートするほか、新たに移居前

に本市の生活や地域交流を体験できる場として「魅力体験住宅」を整備するなど、首都圏から本市への「ひとの流れ」をつくってまいります。

「子育て支援」については、7月に、妊娠から子育てまでを包括的に支援する「大仙市子育て世代包括支援センター『すくすくはなび』」を市内3カ所に開設することとしており、母子保健及び子育て支援サービスが一体的に提供できる環境整備を図ってまいります。

「地域コミュニティの維持」については、路線バスやコミュニティバス、乗合タクシーの運行などにより「市民生活の足」の確保に引き続き努めるとともに、地域の実情に合った最適な交通システムの再構築に向けて調査・検討を行い、平成32年度の実証運行を目指してまいります。

平成31年度は、現総合戦略の総仕上げの年と位置づけ、各種取組をより一層推進するとともに、国や県との連携のもと、議員各位、市民の皆様のご意見をいただきながら、次期総合戦略の策定を進めてまいります。中長期的な視点に立ち、持続可能なまちづくりを意識しながら、産業の振興や移住定住の促進、出会い・子育て、住みよい魅力ある地域づくりに資する新たな施策を盛り込み、地方創生の実現につなげてまいります。

(4) 災害復旧対策について

主要課題等の最後は、災害復旧対策についてであります。

平成29年夏の豪雨災害と、昨年5月の豪雨による被災箇所を含めた「災害復旧事業」については、国の査定決定後の事業規模が全体工事費

21億582万円、箇所数で188カ所となっており、このうち1月末までに169カ所の発注を終え、130カ所が完了しております。

度重なる豪雨により被災箇所が拡大した協和地域の林道災害など、残る工事箇所については、早期の発注に努めるとともに、平成31年度の工事完了を目指し、引き続き、全力で取り組んでまいります。

3 平成31年度当初予算（案）の概要について

次に、平成31年度当初予算（案）の概要について申し上げます。

当初予算（案）につきましては、普通交付税における合併特例措置の段階的な縮減等により、大幅な一般財源不足が見込まれる大変厳しい状況の中での編成となりました。歳入に見合った予算規模となるよう徹底した歳出削減に努める一方、「少子化・人口減少対策」、「大仙らしさ（地域資源）の活用」、「地域の人づくり」、「だいせんライフの確立と発信」、「防災減災対策の推進と都市基盤の整備」の5つの視点のもと、市民生活に密接に関わる事業や地域の活性化に資する取組に対し、予算を優先的に配分しております。

一般会計については、「大曲武道館改修事業」や西仙北中央公民館の改築に伴う「（仮称）大綱交流館整備事業」、「花火産業構想第Ⅱ期」による地方創生への取組など、市民の皆様が住み良さを実感し、将来に希望が持てるまちづくりを進める予算編成に努めております。予算額は、大規模な事業の終了により、前年度と比較して20億7,450万円、率にして4.6パーセントの減となる426億6,670万円となって

おります。

重点施策への予算配分については、「子育て支援と教育の充実」に33億1,600万円、「農業振興と地方創生の推進」に23億4,400万円、「地域振興と活力あるまちづくり」に9億700万円、「移住・定住の促進と雇用の創出」に6億2,500万円、「防災・減災対策と都市基盤整備」に22億7,300万円を計上し、合計予算額94億6,500万円、率にして22.2パーセントとなっております。

その他の会計については、新たに小水力発電事業を加えた13事業の特別会計の合計が101億4,795万6千円、4事業の企業会計の合計が112億6,671万9千円となり、これらを含む予算総額は、640億8,137万5千円となっております。

なお、予算編成にあたっては、一般財源の不足を補うため財政調整基金の取り崩しを行っておりますが、一定の基金を確保できるよう平成30年度の決算見込み等を勘案し、積み増しを行ってまいります。

今後も財政規模の縮小は避けて通れない見通しであり、限られた財源の中でより一層の選択と集中を進めるため、全事務事業の総点検を継続するとともに、公共施設等総合管理計画や平成31年度に改定を予定している行政改革大綱などの取組を着実に推進し、健全な財政運営に努めてまいります。

4 平成31年度の主な施策の概要について

次に、平成31年度の主な施策の概要について、総合計画の施策の体系順に申し上げます。

(1) 魅力ある産業のまちを創ります

はじめに、産業振興・雇用などについてであります。

(農林水産業の振興)

農業生産基盤の整備については、新たに採択された大曲地域の「内小友西部地区」及び神岡地域の「宮田福島地区」を含め、16地区で「県営ほ場整備事業」が実施されることになっております。また、中山間地域の耕作条件不利地域では、「小規模集落元気な地域づくり基盤整備事業」を実施することとしており、耕作条件の改善を推進してまいります。

「多面的機能支払交付金事業」については、市内水田の約8割を対象に138組織が取り組んでおり、農家と地域住民による活動が一層充実するよう支援してまいります。

林業振興については、「秋田県水と緑の森づくり税事業」を活用し、中仙地域「八乙女公園」及び南外地域「檜岡城址」の整備を進めるほか、クマ等の野生動物を対象とした緩衝帯の設置に要する樹木の伐採を西仙北、中仙、協和及び太田の4地域で進めてまいります。

水産振興については、安定した鮭稚魚の放流数確保に努めるほか、小学校等への鮭稚魚の飼育展示による環境学習、市街地の河川で行う

ウライ設置による観光振興など、鮭文化の継承と鮭資源の活用を進めてまいります。

(商工業の振興)

「地域商店街元気づくり事業」については、平成30年度に行った委託調査及び分析を踏まえ、具体的な事業を実施することとしており、今後、市内商工団体等と連携を図りながら、地域商店街の活性化と持続的発展に努めてまいります。

企業対策については、現在、規模拡大を進めている、または検討している4企業を含め、新規誘致企業や設備投資を行う企業に対し、工業用地の取得費のほか、企業立地周辺のインフラ整備費、雪対策に係る経費などを対象に、「工業振興奨励事業」による支援を行い、地域産業の活性化と雇用創出に努めてまいります。

(観光の振興)

観光振興については、県及び東日本旅客鉄道株式会社秋田支社との連携のもと、首都圏主要駅での観光キャラバンを実施するとともに、「花火」を中心に本市の魅力ある観光資源を織り交ぜた観光PRイベントを開催するなど、交流人口のさらなる拡大に努めてまいります。

インバウンド観光については、秋田市、男鹿市及び仙北市との連携により、地域資源を活用したツアー商品の開発、宿泊施設向けの研修会を開催するほか、仙北市及び美郷町との連携による台湾、オーストラリア

などで人気の高いサイクリングコースを活用した誘客を行うなど、外国人旅行者向けのPRと受入環境の整備を進めてまいります。

昨年、全国花火競技大会に合わせ試験的に実施した「イベント民泊事業」については、アンケートによる検証結果を踏まえ、関係機関と連携を図りながら、規模拡大に向けた準備を進めてまいります。

(雇用の安定・就労の促進)

雇用の安定と就労の促進については、深刻な人手不足の解消と若者の定住を図るため、「人材獲得応援事業」を引き続き実施することとしており、企業等が行う求人活動のほか、社員教育やスキルアップ、労働環境の整備に対して支援を行ってまいります。

また、今年1月に締結した厚生労働省秋田労働局及び独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構との「大仙市雇用対策協定」に基づき、企業や求人に関する情報共有や、意見交換を行う高校への訪問活動のほか、スキルアップを目的とした各種訓練の周知、首都圏でのAターン相談会の開催など、3者連携による取組を推進し、若者の地元就職を支援してまいります。

(2) みんなの元気を応援します

次に、子育て、健康・福祉などについてであります。

(子育ての充実)

母子保健については、新たに「新生児聴覚スクリーニング検査」の費用を助成することとしており、子育て世代の経済的負担の軽減を図り、先天的な聴覚障がい早期発見、早期治療に努めてまいります。

保育士の確保対策については、新たに出産等による離職に伴い保育士を緊急雇用した保育事業者に対し、賃金の上乗せ分として「臨時保育士緊急確保推進事業費補助金」を交付することとしております。

「放課後児童クラブ」については、花館小学校区の「第2いちよう児童クラブ」に、新たに定員30人のクラブを増設するほか、「角間川児童クラブ」及び「横堀児童クラブ」の定員数を増やすなど、喫緊の課題である待機児童の解消を図るとともに、支援員の資質向上に向けた研修会を実施し、子どもの健全な育成に努めてまいります。

子どもの貧困対策については、昨年3月に策定した「大仙市子どもの貧困対策に関する推進計画」に基づき、新たに生活保護世帯及びひとり親世帯の小中学生を対象に、市職員による学習支援を行ってまいります。

現在、開会中の通常国会で関連法案が審議されている「幼児教育、保育の無償化」については、子育て世代の経済的負担の軽減を図るため、3歳児から5歳児に加え、住民税非課税世帯の0歳児から2歳児を対象に、保育所等の利用料を無料とするもので、10月から施行される予定であります。

なお、無償化の対象とならない世帯については、県との協働により実施している「すこやか子育て支援制度」において、これまで同様、

本市が制度を拡大し、保育料の一部を支援してまいります。

(保健・医療の充実)

季節性インフルエンザの予防接種については、65歳以上の高齢者に加え、新たに生後6カ月から高校3年生の未成年者及び妊婦を対象に、予防接種に要する費用の一部を助成してまいります。

自殺対策については、現在、策定している「大仙市いのち支える自殺対策計画」により、社会的及び経済的要因に対する支援を推進するほか、関係機関と連携を図り、「誰も自殺に追い込まれることのない大仙市」の実現に向けて取組を進めてまいります。

成人保健については、新たに運動や栄養改善などに関する学習会の開催に加え、その知識を地域に還元できる人材を育成するため、「健康づくり人材育成事業」を実施してまいります。

(社会福祉の充実)

「大仙市子ども・若者総合相談センター」については、「びおら」及び「ふらっと」の業務をNPO法人に引き続き委託することとしており、引きこもりや不登校の児童生徒などに対する相談や居場所の提案、就労支援等を行うほか、「ふらっと」の開設時間を拡大するなど、支援の充実に努めてまいります。

(高齢者福祉の充実)

高齢者福祉の充実については、新たに専門職による短期集中型リハビリを開始するほか、「介護予防・通いの場づくり助成金」の創設、医療介護連携、認知症対策の強化や拡充など、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」のさらなる充実を図ってまいります。

(社会保障の充実)

生活困窮者自立支援については、「自立相談支援事業」をはじめ、「住居確保給付金」、「家計改善支援事業」のほか、昨年9月に訪問支援を加えた「就労準備支援事業」の実施により、潜在的な生活困窮者の把握と、さらなる支援体制の充実に努めてまいります。

現在、開会中の通常国会で審議されている「プレミアム付商品券事業」については、消費税及び地方消費税の引き上げに伴い、低所得者や子育て世帯の経済的負担の軽減と地域での消費喚起を図るため、額面の2割引で購入できる商品券を販売することとしております。詳細については、準備が整い次第、市の広報やホームページ等によりお知らせしてまいります。

(スポーツの推進)

スポーツ振興については、7月13日から15日までの3日間、本県を含む全国32チームの参加により、第3回全国500歳野球大会を

開催することとしております。オリジナル弁当の提供や観光ツアーの実施、特産品販売ブースの設置など、「おもてなし」を充実させ、交流人口の拡大と本市のPRに努めてまいります。なお、大会の財源につきましては、引き続き企業版ふるさと納税を活用することとしております。

スポーツ合宿事業については、ここ数年、首都圏を中心に20を超える団体の皆様が市内温泉施設を利用した合宿を開催するなど、合宿地として定着しつつあります。地域との交流や試合に加え、実技指導、学習指導等を通じて、地域の活性化に大きな役割を果たしていることから、引き続き招致事業を展開してまいります。

「大曲武道館」については、昨年10月に解体を完了しており、平成31年度内の完成を目指し、建築工事を進めてまいります。

(3) 住みよいまちを築きます

次に、安全・安心、都市整備などについてであります。

(安全・安心体制の充実)

消費者行政の推進については、専門相談員による相談窓口の機能強化のほか、FMはなびを活用した注意喚起の実施、「特殊詐欺等電話撃退装置」の無料貸出等を行ってまいります。

防災対策については、近年、大規模化、激甚化の傾向にある災害被害を防止・軽減することに加え、災害廃棄物の処理を適正かつ迅速に行うため、平成30年度に「大仙市災害廃棄物処理計画」を策定しており、

職員を対象とした初動対応訓練や災害協定締結事業所との連携訓練を計画的に進めてまいります。

(雪対策の強化)

雪対策については、「大仙市雪対策総合計画」に基づき、道路の効率的な除排雪、除雪困難な高齢者等への支援など、雪に負けない市民協働のまちづくりを進めてまいります。

また、自治会等による自主的な除雪活動を支援する「地域協働雪対策事業」については、1月末時点で昨年度の実績を7団体上回る30団体の申請を受け付けております。今後もさらなる周知を図りながら、地域の望ましい共助体制の構築に向けて取組を推進してまいります。

(空き家対策)

空き家対策については、「空き家等の適正管理に関する条例」に基づき、危険な空き家の所有者等に対し適正な管理を求めるとともに、必要に応じて解体費の一部を助成するほか、意向調査を行い制度の検証と見直しを行ってまいります。また、「空き家バンク」の登録の促進に加え、新たに空き家を未然に防ぐための啓発、空き家などを所有する方への個別相談を、民間事業者と連携を図り積極的に実施してまいります。

(公共交通の整備)

「秋田新幹線防災対策トンネル整備促進期成同盟会」については、

首都圏等との大動脈である秋田新幹線の安全性向上と安定的運行の早期実現に向け、引き続き国等への要望活動を行ってまいります。

（環境衛生の整備）

一般廃棄物最終処分場の廃止については、大曲地域及び中仙地域の最終処分場のモニタリングを行うほか、残る5カ所の最終処分場の早期廃止に努めてまいります。

廃棄物処理の広域化については、本市、仙北市及び美郷町において、昨年6月に廃棄物処理の広域化に関する協定書を取り交わしており、4月から大曲仙北広域市町村圏組合に大仙美郷環境事業組合及び仙北市の廃棄物処理施設の管理運営に関する権限を移管し、業務を行うこととしております。

（地域情報化の推進）

「シティプロモーション戦略事業」については、広報やコミュニティFMなどの媒体に加え、より身近なスマートフォンを活用し、市民との協働により「大仙市の魅力」「大仙市らしさ」となる人材、自然などの地域資源を発掘しながら適時的確にその情報を発信してまいります。

（市街地の整備）

「（仮称）はなびのこみち小路整備事業」については、大曲駅から花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」までのアクセス性向上に加え、中心

市街地の回遊を促進するため、丸子川左岸の堤防歩道の整備を進めてまいります。

（道路の整備）

道路の維持管理については、市内3カ所に設置した道路維持センターによる迅速な道路舗装やパッチング等に加え、パトロール強化や試験的に導入したスマートフォンによる道路情報収集システムの活用等により、安全で快適な道路空間の確保に努めてまいります。

（上下水道の整備）

上水道事業については、宇津台浄水場施設うつのだいの更新事業のほか、内小友いながしら七頭地区の水道未普及地域解消事業の完了に向け整備を進めてまいります。

簡易水道事業については、神岡神宮寺地区、神岡北檜岡地区及び西仙北大野地区の統合に加え、周辺の未普及地域へ給水を行うため、新たな水源地の築造を進めてまいります。また、協和中央地区及び協和南部地区の事業統合に向けた調査のほか、引き続き、協和南部地区の配水管更新事業を実施してまいります。

下水道事業については、平成30年度から地方公営企業法による会計処理を適用しており、引き続き、経営の効率化や経営基盤の強化を図ってまいります。

また、多発する浸水被害に対応するため、現在、大曲地域丸子川流域

の市街地を対象に、雨水排除に特化した「雨水管理総合計画」を策定しており、平成32年度からの国の補助事業実施に向け、公共下水道の認可変更業務を進めてまいります。

(住環境の整備)

住宅環境の整備については、住宅の耐震化率向上のため、木造住宅の耐震診断、耐震改修の費用に対する助成を引き続き行うほか、子育て世帯への支援を強化した「住宅リフォーム支援事業」を実施し、さらなる居住環境の向上に努めてまいります。

市営住宅の長寿命化については、「公営住宅等長寿命化計画」に基づき、船場町市営住宅4号棟の屋上防水改修工事を予定しております。

(4) 豊かな心と創造力を育みます

次に、教育、生涯学習、芸術・文化などについてであります。

(学校教育の充実)

教育内容の充実については、「キャリア教育推進『総合的な学力育成』事業」や「大仙ふるさと博士育成事業」等を引き続き行い、子どもたちが社会の中で役割を果たし、自分らしい生き方を実現できる知識や教養、能力を習得する機会の創出に努めてまいります。

学習環境の整備については、平成32年度から小学校での外国語教育の学習時間が大幅に増加するため、ALT、CIR、英語教育

アドバイザーの配置に加え、ALT等との積極的な交流を目的とした「グローバルジュニア・マイスター育成事業」をさらに推進してまいります。

中仙地域の小学校、中学校の統合については、昨年12月から3回にわたり、保護者、地域住民及び学校関係者で構成する「中仙地域学校再編素案検討委員会」を開催し、統合のあり方や形態などについてご意見を伺っており、これを基に統合に関する計画案を策定することとしております。

（生涯学習の推進）

「（仮称）大綱交流館整備事業」については、昨年12月、西仙北中央公民館の整備を機に、地域の伝統行事である「刈和野の大綱引き」の継承と地域住民の交流による地域の活性化を図るため、「大仙市刈和野地区都市再生整備計画」を策定しており、国の社会資本整備総合交付金を活用し、平成32年10月の開館に向け、整備を進めてまいります。

総合図書館事業については、「第2次親と子の夢を育む読書活動推進計画」が計画期間の最終年度を迎えることから、さらなる読書活動の充実と環境整備に向け、次期計画を策定してまいります。

（芸術・文化の振興）

総合市民会館事業については、4つの市民会館において優れた文化

芸術の鑑賞機会を提供するほか、市内の児童生徒、音楽団体に加え、幅広い音楽ジャンルの参加を促進し、より多くの市民の皆様に喜んでいただける「大仙市音楽祭」を開催してまいります。

文化財の活用については、旧池田氏庭園の本家庭園を大型連休にあわせて、昨年より1カ月早い4月下旬から、また国登録有形文化財の旧本郷家住宅を5月中旬から常時公開するほか、文化観光コースの整備、案内人の養成等に努めてまいります。

(地域間交流・国際交流の推進)

地域間交流については、友好交流都市である神奈川県座間市、有縁友好都市である宮崎県宮崎市に加え、復興支援などを通じて交流を深めている岩手県宮古市との間で、友好関係の強化を目指し、青少年や市民団体などによる交流事業を実施してまいります。

国際交流については、友好交流都市である韓国唐津市たんじんしとの青少年交流事業を実施するほか、新たに台湾新北市しんべいしとの友好交流関係構築に向けた取組を行ってまいります。台湾新北市との交流は、本市大曲青年会議所と新北市中和国際青年商会との30年にもわたる友好交流をご縁にしたもので、2月17日から4日間、茂木議長、市議会議員、大曲商工会議所、大仙市観光物産協会、大曲青年会議所及び太田の火まつり実行委員会の皆様とともに訪問してきたところであります。表敬訪問した新北市政府、新北市中和区、中華民国外交部等では大変な歓待をいただいたところであり、また、台湾を代表する祭り「平溪天燈祭り」びんしーてんとうまつにも参加し

「太田の火まつり」の紙風船を揚げるなど、関係構築に向けて大きな一歩となったところであります。今後も関係団体との連携のもと、観光や教育、文化等様々な分野にわたる友好交流実現を目指してまいります。

(5) 時代に合った地域を創ります

次に、地域社会の維持・活性化等についてであります。

(地域社会の維持・活性化)

地域社会の維持・活性化については、地域の課題解決に向けた市民活動を応援する地域枠予算に加え、自治組織の育成、自治会館の維持管理に対する支援を引き続き行ってまいります。

(移住・定住の促進)

移住・定住の促進については、首都圏等から移住者を呼び込むため、移住相談会をはじめ、SNSを活用した情報発信、お試し移住体験などにより、本市の魅力発信に努めるほか、住宅支援や移住者同士の交流を目的としたネットワーク交流会を開催するなど、移住後の生活にも配慮した事業に取り組み、移住・定住者の増加につなげてまいります。

(市民との協働)

市民との協働によるまちづくりについては、地域資源の掘り起こしと活用を目的とした「地域の魅力再発見事業」を実施しており、継続的に

行っている各地域の特色ある取組に加え、新たな事業を展開することにより、各地域の魅力を磨き上げてまいります。

（行財政運営の効率化）

職員採用試験については、平成31年度から全ての採用枠において、民間企業で活用されている総合適性検査、通称「SPI3」を第1次試験に導入することとしております。全ての採用枠での導入は、県内の自治体で初めての試みとなるもので、一定期間内に全国での受験が可能になるなど、多くの方から応募していただけるものと期待しております。

市税等の収納対策については、4月1日以降に発行する納付書から、現在の納付場所に加え、全国のコンビニエンスストアや東北6県のゆうちょ銀行・郵便局で納期内納付ができるよう取扱窓口を拡大し、市民サービスの向上と税等の収納率向上に努めてまいります。

組織機構の改革については、今後のさらなる人口減少と財政規模の縮小に鑑み、市民サービスの安定的提供と複雑多様化する事務事業の的確な執行を可能とする効率的な組織体制の構築について検討をしてまいります。

5 むすびに

以上、市政運営に対する私の考え方を申し上げます。

結びに、平成31年度は新たな時代が幕を開ける重要な年でありますが、本市にとりましても大仙市誕生15周年を迎える大切な年でありま

す。これまでの歩みを振り返り、本市の将来を考え、新たなスタートを切るための節目のときであります。

これまで市民の皆様とともに築いてまいりました成果を礎に、さらなる市政の発展と、本市の将来都市像であります「人が生き 人が集う 夢のある田園交流都市」の実現を目指し、「挑戦」と「不撓不屈^{ふとうふくつ}」の精神を持って、「すべての地域がすみずみまで元気になるまちづくり」、そして「市民の皆様が住み良さを実感し、将来に希望が持てるまちづくり」に誠心誠意、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

市民の皆様並びに議員各位からのより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます、平成31年度の施政方針といたします。

平成31年第1回大仙市議会定例会

市政報告（諸般の報告）

平成31年2月22日

大 仙 市

目 次

【総務部】

- 1 雪下ろし技能講習会について..... 3
- 2 第5回大仙市シェイクアウト訓練について..... 3
- 3 各種災害時応援協定について..... 3

【市民部】

- 4 大仙市交通指導隊・防犯指導隊合同観閲式について 3

【農林部】

- 5 水稻の直播栽培導入推進事業について..... 3
- 6 6次産業化セミナーについて..... 4

【経済産業部】

- 7 誘致企業について..... 4
- 8 平成31年3月高校卒業予定者の就職状況について 4
- 9 秋田県・県内市町村と首都圏等企業との懇談会について 4
- 10 仙北地域企業説明会について..... 4
- 11 市内の小正月行事等について..... 5
- 12 首都圏PRイベントについて..... 5
- 13 インバウンドサイクリングコース活用事業について 5
- 14 韓国との青少年交流について..... 5
- 15 第11回国際フェスティバルin大仙について..... 5
- 16 食品ブランド「せんのぜん」について..... 6

【建設部】

- 17 雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業について（国） 6
- 18 災害復旧関連事業等について（県） 6

【教育委員会教育指導部】

- 19 小・中学校の部活動について..... 6
- 20 大仙市立中学校生徒海外派遣事業について..... 6
- 21 「大仙ふるさと博士育成」事業について..... 7

【教育委員会生涯学習部】

- 22 公民館建築事業について..... 7
- 23 第13回大仙市民書初め大会について..... 7
- 24 第13回大仙市芸術文化賞表彰について..... 7

25	古四王神社文化財防火デーについて.....	7
【上下水道局】		
26	上水道事業について.....	7
27	簡易水道事業について.....	8
28	下水道事業について.....	8

【総務部】

1 雪下ろし技能講習会について（総合防災課）

昨年12月20日、大曲地域職業訓練センターと県仙北地域振興局を会場に、市民や関係者約110人が参加しました。大仙警察署による雪下ろし事故の概要を主とした「座学講習」のほか、大曲消防署による安全な雪下ろし作業の「実技講習」が行われました。

2 第5回大仙市シェイクアウト訓練について（総合防災課）

1月23日午前11時、友好交流都市神奈川県座間市と連携を図り、市内の学校、企業、団体の関係者など、昨年度より約9,000人多い39,059人が参加しました。地震を想定した訓練のほか、「冬期間の停電」をテーマに今回からプラスワン訓練を実施し、72団体が自主的な取組を行っております。優良な事例については、今後、ホームページ等によりお知らせします。

3 各種災害時応援協定について（総合防災課）

2月1日、市内の機械器具設置工事業者8社で構成する「大仙市機械器具設置工事業協議会」と「災害時応急対策業務応援協定」を締結しました。災害時の水道施設等の応急復旧作業や排水作業などに協力をいただきます。加えて「ヤフー株式会社」と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結し、避難情報や災害状況など「Yahoo! JAPAN」サイトや「Yahoo!防災速報アプリ」による情報発信等が可能となります。

また、3月1日に「ソフトバンク株式会社」と「災害時における通信設備復旧等の協力に関する協定」を、「一般社団法人秋田県建造物解体業協会」と「災害時における応援協力に関する協定」を締結する予定としています。

【市民部】

4 大仙市交通指導隊・防犯指導隊合同観閲式について（環境交通安全課）

1月10日、隊員の任務の自覚と士気の高揚を図るため、中仙農村環境改善センターを会場に、交通指導員62人及び防犯指導員29人が参加し、市長並びに大仙警察署長による観閲を行いました。

【農林部】

5 水稻の直播栽培導入推進事業について（農業振興課）

2月7日、仙北ふれあい文化センターを会場に、農研機構東北農業研究

センターの協力により実施した無コーティング種子直播栽培の実績検討会を開催しました。直播栽培取組農家や仙北地域認定農業者協議会会員等61人が参加し、活発な意見交換が行われました。

(実績：作付品種 めんこいな、単収 564kg / 10a)

6 6次産業化セミナーについて（農業振興課）

2月20日、市内農業者や事業者等を対象に、6次産業化の知識習得や意識醸成を図るため、グランドパレス川端を会場に県の6次産業化支援者養成研修講師を迎え基礎セミナーを開催したほか、市内若手事業者を交えたトークセッションを行いました。

【経済産業部】

7 誘致企業について（企業商工課）

「株式会社大仙バイオマスエナジー」により協和地域^{だいばやし}台林に整備を進めていた発電所が完成したことから、1月11日に竣工式が行われ、市長をはじめ両副市長が出席しました。2月からは売電を開始しており、市関連施設で使用するなど電力の地産地消を進めています。

8 平成31年3月高校卒業予定者の就職状況について（企業商工課）

ハローワーク大曲の集計によると、昨年12月末時点で求人数は592人、就職希望者は316人、この内300人が内定者で率にすると94.9%であり、県平均94.2%を0.7ポイント上回りました。

9 秋田県・県内市町村と首都圏等企業との懇談会について（企業商工課）

1月23日、24日の両日、県内に進出済みの企業関係者や自治体の首長などが参加し開催されました。本市においては、各企業に対し支援策を紹介するとともに、現状などについて情報交換を行いました。なお、23日は大阪府の「太閤園」を会場に121人が参加し、本市から佐藤副市長が、また、24日は東京都の「ホテル椿山荘」を会場に365人が参加し開催され、本市から市長が参加しました。

10 仙北地域企業説明会について（企業商工課）

2月15日、地域企業を知り就職に対する理解を深めるとともに、早期離職者の減少、若者の地元定着を図るため、フォーシーズンを会場に開催

し、地元企業を含む40業者と高校2年生474人が参加しました。

11 市内の小正月行事等について（観光交流課）

大仙の冬を彩る小正月行事や冬まつりが市内各地域で次のとおり開催されました。

1月13日 八坂神社ぼんでん（中仙）

2月 2日 払田柵の冬まつり（仙北）

〃 太田の火まつり（太田）

2月10日 国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」（西仙北）

2月11日 川を渡るぼんでん（大曲）

2月14日 押切の火振りかまくら（中仙）

2月16日 鳥子舞・大曲の綱引き（大曲）

12 首都圏PRイベントについて（観光交流課）

1月12日、13日の両日、代々木公園イベント広場を会場に「『秋田犬の里』首都圏PRイベント・AKITAワンダフルフェス」が行われたほか、1月12日から14日までの3日間、横浜八景島シーパラダイスを会場に「こでられねー秋田大集合2019」が開催され、「大曲の花火」のブランド力を活かし、市特産品等の紹介や販売、観光PRを行いました。

13 インバウンドサイクリングコース活用事業について（観光交流課）

昨年12月3日から8日の6日間、サイクリング人気の高いオーストラリアで、また12月13日から18日の6日間、同じく台湾において、訪日外国人観光客の誘客を促進するため、本市、仙北市及び美郷町の関係者が参加し、ツアー造成のためのプロモーション活動を行いました。

14 韓国との青少年交流について（観光交流課）

1月9日から16日までの間、大仙市国際交流協会がソウルにある青少年交流団体「韓国LABO」の訪問団9人を受け入れ、レクリエーションや大曲農業高校での学校交流、日本文化体験等のメニューを通じて交流を行いました。

15 第11回国際フェスティバルin大仙について（観光交流課）

2月2日、本市及び大仙市国際交流協会の共催により、イオンモール大曲を会場に開催しました。国際活動や外国文化を紹介するインターナシヨ

ナルブースの設置のほか、民俗芸能等のステージ披露が行われました。

16 食品ブランド「せんのぜん」について（観光交流課）

2月13日から15日までの3日間、千葉市幕張メッセを会場に開催された商談展示会「スーパーマーケットトレードショー」へ出展し、市内農水産物を活かした各商品の紹介とブランドのPRを行いました。

【建設部】

17 雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業について（国）

昨年12月末現在の進捗状況は、用地調査業務63%、用地補償業務77%、築堤工事や堤防の嵩上げ等の工事71%と伺っています。

18 災害復旧関連事業等について（県）

昨年12月20日現在、災害復旧関連工事の発注状況は、淀川35%、福部内川100%、土買川70%、檜岡川35%と伺っています。また、3月末までに淀川で約2億円、土買川及び檜岡川でそれぞれ約20億円の工事を発注する予定と伺っています。

【教育委員会教育指導部】

19 小・中学校の部活動について（教育指導課）

昨年12月15日、「さいたまスーパーアリーナ」で開催された第46回マーチングバンド全国大会において、大曲中学校吹奏楽部が「中学生の部・大編成」で12年連続の金賞を獲得したほか、太田中学校及び協和中学校合同で出場した吹奏楽部が「中学生の部・小編成」で銀賞、HMB花館小学校マーチングバンドが8年連続で出場した「小学生の部・小編成」で銀賞を受賞しました。

また、昨年12月16日、滋賀県で開催された「第26回全国中学校駅伝大会」に大曲中学校男子駅伝部が出場しました。

20 大仙市立中学校生徒海外派遣事業について（教育指導課）

1月4日から12日までの9日間、市内の中学2年生20人をオーストラリアへ派遣し、全員無事に帰国しました。

生徒らは、ファームステイ先のホストファミリーや現地の子供たちとの交流の様子に加え、事前に設定した「観光」、「地域活性化」、「人口問題」、「言語・コミュニケーション」などの研究テーマについて、日本と比較して気付いたことや考えたことなどをレポートにまとめ、2月13日

に開催した報告会で発表しました。

21 「大仙ふるさと博士育成」事業について（教育指導課）

1月8日から11日までの4日間、「冬の特別企画 企業見学DAY」を市内4企業で行いました。また、1月10日、11日の両日、「ふるさと農業体験DAY」を市内3農業施設で開催しました。1月25日時点において、大仙ふるさと博士の認定を受けた児童生徒は名誉博士11人、上級100人、中級835人、初級3,162人となっております。

【教育委員会生涯学習部】

22 公民館建築事業について（生涯学習課）

「中仙公民館清水分館改築工事」は、3月15日に完成の予定であり、4月1日から清水地域の生涯学習拠点施設として開設する見込です。

23 第13回大仙市民書初め大会について（生涯学習課）

1月8日、大曲体育館を会場に児童生徒を含む市民83人が参加し、書き初めをはじめ、大曲高校書道部による書道パフォーマンスや初心者を対象とした書道体験などが行われました。

作品は、1月12日から20日まで大曲交流センターに展示され、多くの市民に鑑賞いただきました。

24 第13回大仙市芸術文化賞表彰について（生涯学習課）

2月15日、大仙市芸術文化協会が芸術文化活動において特に顕著な功績や実績を上げた6個人、1団体を選定し、グランドパレス川端を会場に表彰式及び受賞祝賀会を開催しました。

25 古四王神社文化財防火デーについて（文化財保護課）

1月20日、「文化財防火デー」の一環として、国の重要文化財に指定されている大曲地域の古四王神社で防火訓練が行われ、地域住民や東大曲小学校の児童など約200人が参加しました。

【上下水道局】

26 上水道事業について（水道課）

内小友七頭^{なながしら}地区等の配水管布設工事2工区が昨年11月30日に、また、大花町地区上水道配水管改良工事2件が昨年12月14日に完成しました。

27 簡易水道事業について（水道課）

協和南部地区簡易水道の配水管更新工事に係る地質調査業務が昨年11月30日に、また、測量業務が昨年12月21日に完了しました。

28 下水道事業について（下水道課）

大曲及び南外地域の管渠工事が昨年12月までに完成しています。また、本年度施行分の強首浄化センター長寿命化対策工事が3月の完成を目指しております。